YAMAGATA★IBUKI Vol.144

山形いぶき

YNA 夢・ナーシング・愛

米沢市立病院

当院は、地域に密着した急性期病院として専門知識をもつ看護師が看護外来を開設しています。緩和ケア認定看護師の「がん看護外来」、皮膚排泄ケア認定看護師の「ストーマ看護外来」、糖尿病療養指導士の「透析予防指導、フットケア外来」、新たに助産師が「産後2週間健診外来」を行っています。在宅で療養している患者さんは、治療そのものや、治療中の日常生活にまつわる不安や悩みを抱えながら生活をしています。患者さんや家族に寄り添い、安心して暮らしの場で生活できるようにサポートしています。

今後も地域で暮らす住民を支える「看護外来」をめざし頑張っていきます。

副院長 兼 看護部長　若月 裕子

ストーマ看護外来の指導

看護外来担当者

TOPICS

- 平成31年を迎えて
- 山形県看護研究学会・訪問看護ステーション技術研修会
- 保健師・助産師・看護師Ⅰ・Ⅱ職能だより
- 平成生まれナース　今年の抱負
- 看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）活用に関する調査
- 庄内・置賜支部活動状況
- 県内の認定看護師の活動
- ナースセンターだより

2019年度「日本看護協会通常総会・職能交流集会」

- 期日：2019年6月6日(木)～7日(金)
- 場所：北海道函館市　函館アリーナ

2019年度「山形県看護協会通常総会並びに職能研修会」

- 期日：2019年6月21日(金)
- 場所：山形県看護協会会館・看護研修センター

平成30年度会員数（12月現在）

保健師	363
助産師	363
看護師	6,860
准看護師	197
計	7,783

公益社団法人 山形県看護協会
ホームページ http://www.nurse-yamagata.or.jp
山形県看護協会
県ホームページ「すまいる山形暮らし情報」からもリンクできます。機種によってはアクセスできない場合があります。

会長あいさつ　―平成31年（2019年）を迎えて―

新たな時代に向かって、看護職の連携・強化しよう

公益社団法人山形県看護協会　会長　井上　栄子

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたりまして一言ごあいさつ申し上げます。

日頃より山形県看護協会の事業に関してご支援とご協力をいただき、新しい年を迎えることが出来ましたこと、心から感謝申し上げます。

さて、少子超高齢社会の人口・疾病構造を見据えた社会保障制度改革はすでに進んでおり、地域包括ケアシステムの構築や働き方改革等が推進されています。

地域包括ケアシステムの推進にあたっては、看護管理者と行政保健師の連携が必要であり、地域ごとの看護管理者のネットワークの連携・強化が重要です。

平成28年、29年の日本看護協会の「都道府県看護協会地区支部等看護職連携構築事業」に、庄内地域、置賜地域が参加し、平成29年から山形県看護協会の「地域の看護力強化事業」として、庄内地域、置賜地域、西・北村山地域、最上地域が継続して活動しています。

平成30年度は、東南村山地域の中規模等施設等の看護管理者のネットワークが発足しました。各地域で地域の課題や職場を超えた情報の共有、住民・多職種参加のイベント等の取り組みを行っています。

また、訪問看護に関する事業では、山形県訪問看護サービス提供体制整備事業「担い手創出等事業」も引き続き県から受託し、医療機関においても退院支援・在宅療養支援機能の強化や、訪問看護の人材育成と推進に向け取り組んでいます。

そして、ワーク・ライフ・バランスの推進による勤務環境改善では、中規模施設の勤務環境改善に向けての支援と、看護の質の向上のための研修等を実施しております。

平成30年度は、ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）の考え方の普及と、働き方改革関連法が2019年4月から順次施行されることから、「働き方」についての研修を実施したいと思います。

看護職能団体として看護職の支援を行い、看護の将来ビジョンを目指し、新たな時代に向かって更なる看護職の連携・強化できるように、ご協力していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、皆さまにとって良い年でありますようにご祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。

平成30年度山形県看護研究学会

「地域包括ケア時代に拡大する看護の役割」を終えて

学会委員会委員長　関亦　明子

口演発表

山形県看護研究学会が平成30年11月10日（土）に山形県看護協会会館で開催され、22組の研究グループによるレベルの高い発表が行われました。今年の学会は、在宅での療養者が増加するなかで拡大していく看護職の役割について考える機会となりました。これからさらに重要性を増す患者自身や家族の意思決定支援について、奥山慎一郎先生（山形県立河北病院緩和ケア科）から豊富な事例を交えて「意思決定支援はだれがする？　―患者・家族の生活をより良いものにするために―」という題でご講演いただきました。交流集会「看護外来のこれから」においても、患者とその家族のより良い療養生活を支援するために、日々組織に働きかけながら奮闘する認定看護師のシンポジスト3名（田代陽子さん、蜂谷博子さん、小向里江子さん）から発表をいただき、議論が盛り上がり参加者のみなさんの関心の高さがうかがえました。

認定看護師によるナースカフェ

また、本年度も認定看護師のみなさんによる特別企画「Nurse　Cafe」を開催しましたが、こちらも大変好評でした。今後も楽しみながら情報交換ができる企画をいろいろ考えて参ります。この山形県看護研究学会をどんどん利用して研究のレベルアップにお役立ていただければと願っております。

最後になりましたが、なによりも臨床で日々の業務に追われながら研究に取り組み、その成果を発表された向上心の高いみなさんの努力に敬意を表します。お疲れ様でした。

訪問看護ステーション技術研修会開催

「その人を生きる」を支える早期からの緩和ケア

リハビリ特化型訪問看護ステーション菜の花　大島　康晴

村山南地区ブロック会議・技術研修会が11月14日に開催されました。山形県看護協会の鈴木常任理事にご尽力いただき、山形県立中央病院　神谷浩平医師より、『「その人を生きる」を支える早期からの緩和ケア』をテーマにご講義いただきました。その後は山形県立中央病院　安孫子さとみ緩和ケア認定看護師と、村山南ブロックの13ステーションの管理者が『コミュニケーション・関係調整』をテーマに意見交換を行いました。

在宅医療が推進される現在、どのような最期を迎えるか、そしてそれをどのように支援するのか、というのは重要な課題となっています。病院から在宅へ、スムーズに療養場所を移行するには、病院看護師と訪問看護師が情報共有し、それぞれの役割を理解して連携を深めていく必要があること、そしてその重要性を再認識し、勉強させていただきました。

当人はもちろん、家族にとっても満足のいく最期の迎え方を選択できるよう に、そしてその選択を支えることができるように、我々訪問看護ステーションも日々の研鑽を重ね、医療機関との連携を強めていきたいと思います。

鈴木常任理事による開会挨拶

訪問看護ステーション技術研修会を受講して

天童訪問看護ステーション　氏家　由佳

9月1日サハトベに花に於いて、訪問看護ステーションあたしん家の訪問看護認定看護師　佐藤貴美代氏を講師に迎え「KYT（危険予知トレーニング）をやってみよう」と題して、技術研修会が開催されました。

リスク管理の講義の後、グループに分かれてKYT 演習を行いました。具体的なイラストを見ながら、「この状況で起こり得る事」「起こっているかもしれない事」について意見を出し合いました。同じ状況を見ながら話し合いをする事で、お互いに気が付く事、気が付かない事、気が付いても重要とみなすかどうか、どのような対策を考えるかなどそれぞれに見方が異なり、情報を共有する事や具体的な対策を検討する事の必要性を再確認できました。

グループワーク

参加者からも今後職場に取り入れていきたいとの声があり、リスクに気付く視点を学ぶ事が出来た有意義な研修会でした。

心不全の再入院予防のために

訪問看護ステーションハローナース　本間　幸井

高齢者心不全患者を在宅で支える機会が増え、心不全の増悪により入院するケースを経験しています。心不全再発予防の支援を学びたいと思い、9月29日行われた庄内地域訪問看護技術研修会、演題「心不全の再入院予防の心臓リハビリテーション」を受講しました。

心不全は80代になると罹患率が急増するため、団魂の世代が80代を迎える頃には心不全患者があふれかえる「心不全パンデミック」が到来すると考えられているとのことでした。

講演では病院での治療や多職種での自己管理方法の支援行程を知ることができ、また、事例紹介では、患者の希望や大切にしていることに注目した視点を持ち、「その人にとって」を考えた再発予防支援の実践からセルフケア能力の向上を促すための関わり方を学ぶことができました。在宅療養中に係る訪問看護師として再発予防行動を評価し、増悪の有無を観察し、増悪時は早期に発見、受診できるよう支援する役割を果たしていきたいと感じました。

講師：心臓リハビリテーション指導士
齋藤　百合氏

置賜ブロック会議を終えて

湖山病院訪問看護ステーション　石川　容子

10月24日（水）置賜総合支庁にて置賜ブロック会議が開催されました。

第一部は皮膚・排泄ケア認定看護師　渡部香織氏を講師に迎えて「スキン-テアの予防と管理」の技術研修が開催され、従事者を含め約20名の参加があり、試供品などを用いて新しい情報など学ぶことができました。

第二部はブロック会議「スムーズな在宅移行に向けた看護職連携」が開催され、12病院と13の訪問看護事業所、行政、看護協会と約30名の出席がありグループワーク・意見交換などを行いました。“訪問看護などの連携で課題や困っていること”の事前アンケートを確認すると訪問看護への期待が高まっていることを実感し、訪問看護のマンパワーを高める必要性があると思いました。住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、お互いが同じ方向を向いて連携をとれるよう働きかけていければと思います。

再確認と新しい情報を得ました

介護保険施設看護管理者育成研究事業における集合研修を受講して

特別養護老人ホームながまち荘　丹野　美智代

11月24日に千葉大学大学院の酒井郁子教授を講師に、東北文教大学の橋本美香学科長をファシリテーターに迎えて集合研修を行った。受講生は、特別養護老人ホームの看護管理者の立場にある15名である。研修にあたり、事前課題（自施設を取り巻く環境把握、自施設の現況と課題）の記入・e-ラーニング（8時間）を行い、各自課題を持ち参加した。研修では4グループに分かれ、午前は自己・自地域・自施設紹介後に「夢の地域包括ケアシステム」についてワーク。午後は酒井教授の講義を受け、一つの課題の解決に向けてマンダラートを用い意見交換し、最後に全員で共有した。

今回参加させて頂き、事前課題を行う事で自施設を取り巻く環境や役割、自地域包括の現状、自施設の現状を改めて知り視野を広げる良い機会となった。e-ラーニングでは看護管理者の役割について再確認することができた。研修では他地域や施設の状況を知り、課題を抽出し管理者として抱えている悩みを共有できた。またワークは楽しく取り組むことができた。受講生全員が発言し、アイデアを出し合い活き活きとワークに取り組む姿勢に施設看護師のパワーを感じた。今後まだ育成事業の課題は継続するが、今回の学びを活かして取り組んでいきたい。

保健師 職能だより

日本公衆衛生学会で発表された『山形県における保健師の保健活動到達状況調査』より

保健師職能委員　土田　ゆり

10月25日に郡山市で行われた日本公衆衛生学会に参加させていただきました。

山形県はキャリアラダー(専門性のレベル付けや評価だけではなく、個々の経験や志向性を踏まえた丁寧な人材育成で保健師個々の成長に焦点を当てられる)を取り入れた人材育成計画を策定するにあたり、山形県・山形大学医学部看護学科・山形県看護協会の共同で、県内の行政に勤務する保健師に対して「保健活動到達状況調査」を実施しました。その調査結果をこのたび第７７回日本公衆衛生学会に発表いたしました。

「山形県の保健師の保健活動の到達状況」として「経験評価」「行動評価」「部下への指導評価」の評価項目ごとにまとめた分析結果から、多様な領域での活動経験による人材育成体制を整える必要があると考えられるとのことでした。今回の調査結果を活かし、山形県、山形大学、山形県立保健医療大学、山形県看護協会等の支援を受けながら市町村における人材育成計画策定に取り組む必要性を感じました。

「保健指導ミーテング」を終えて

保健師職能委員　小野　久仁子

11月3日に保健師職能・助産師職能合同研修会が「妊娠期から子育て期を支える支援とは～医療モデルから子育て支援モデルへのシフト～」と題し開催されました。小児科医師であり保健所長経験もある佐藤拓代先生（大阪府立病院機構大阪母子医療センター）よりエネルギッシュな講話と助言をいただきました。孤立しやすい現代社会において関係機関が連携しながら、きめ細やかな支援をより充実させていく必要性を強く感じました。

午後からは山形済生病院の産後ケアや寒河江市子育て世代包括支援センターの活動の事例発表後、グループワークで「地域での連携体制づくり」などについて活発な話し合いが行われ「他職種の方々の話を聞くことができ大変有意義だった」「地域と病院の連携を進めるネットワークを作りたい」などの意見がよせられ、今後も継続的に取り組む予定となりました。

助産師 職能だより

助産師職能委員
渡部　まゆみ

平成 30 年度　継続教育研修

新人助産師研修（卒後3年目まで）
CLoCMipのレベル新人―レベルⅠに添って
平成30年8月18日（午前）開催　参加人数11名

講　師：山形県立保健医療大学教授　遠藤恵子氏
内　容：グループワークで情報交換を通し課題を見つけるとともに、同世代助産師の交流を深めることができました。

母体救急、危機的産科出血の対応　平成30年8月18日（午前）開催　参加人数20名

講　師：山形大学医学部附属病院　産科婦人科　高橋可菜子氏
内　容：産科出血についての理解と対策、医療チームとしての連携について学ぶことができました。

高橋可菜子先生の講義

保健師助産師合同研修
「妊娠期から子育て期を支える ー医療モデルから子育て支援モデルへのシフトー」
平成30年11月3日開催　参加人数38名

（午前）講　師：大阪母子医療センター母子保健情報センター顧問　佐藤拓代氏
（午後）妊娠期から子育て支援の連携など実践事例発表　グループワーク
内　容：切れ目のない支援を進めていくための助産師と保健師が協同して地域での支援体制の構築ができました。

助産師職能委員会は2020年・2021年のアドバンス助産師更新に向け、更新要件を明確に各施設に伝達していけるように情報発信しております。安全で安心な分娩環境の確保のためアドバンス助産師の新規・更新の支援を行ってまいりますので、皆さんのご意見、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

看護師 職能Ⅰだより

看護師職能委員会Ⅰ委員長
竹田　恵美子

今年度の委員会は、病院看護師の在宅療養支援力と地域連携の強化、日本看護協会の看護師のクリニカルラダー運用に関する周知活動と勤務環境改善の推進の3つを目標に、日本看護協会からの情報を基に、情報収集、課題の抽出・検討、研修会の開催等の活動を行っています。

小島由利恵先生の講義

去る9月21日(金)、福島県ふたば医療センター附属病院　小島由利恵先生を講師にお迎えし、「多職種でつないで支える入退院支援」の研修を開催しました。参加者は175名と関心度の高さが伺えました。その人らしい生活を支えるために、病院看護師・多職種の役割と連携・協働のあり方、患者にとって最善の意思決定を導く支援等、グループワークを交えながら多くを学ぶことが出来ました。

グループワークで情報交換

研修受講者からは、「生活者として捉え生活の場に帰るためのアプローチをチームで行っていくこと、そのためのマネジメント部門が必要」「退院支援は外来から断続的に取り組む、継続看護の重要性を改めて理解」などの感想がありました。講師のお話を熱心に聴講する姿が多く、活発なグループワークのもと情報交換が行われ有意義な研修会となりました。

看護師 職能Ⅱだより

看護師職能委員会Ⅱ委員長
矢萩　節子

看護師職能Ⅱ研修会

「小規模施設で働く看護職のための研修」
―介護施設等における看護倫理と看護職に期待されること―
平成30年8月25日（土）

午前　講演「訪問看護から学ぶコミュニケーションスキル向上」
講師　公益社団法人山形県看護協会　訪問看護ステーションむらやま
訪問看護認定看護師　　設楽　妙子　氏

コミュニケーションは相手との距離や位置が大切で、良好なコミュニケーションは4つの交流（事実・感情・理解・関係）を意識することが必要です。コミュニケーションスキルを向上するためには、4点（傾聴・共感・沈黙・共にいること）を活用していくことを学びました。また、ロールプレイで、実体験を通して、効果的なコミュニケーションや難しさを学ぶことができました。

ロールプレイの説明

午後　講演「介護保険施設等の看護職に期待されること」
講師　公益社団法人日本看護協会　常任理事　　荒木　暁子　氏

看護協会の事業や取り組みが政策につながっていること、介護施設の看護職の役割や課題について提起されました。多職種のなかでリーダーシップをとる看護職は、公言と行動が一致しなければならず、メンバーを支えていかなければなりません。倫理的な問題は日常ケアに潜んでおり、①ケアの基本の理解　②高齢者、障害のある人、家族の理解　③適切なケアを追及する語り合える風土を理解し、施設全体で取り組んでいかなければならないことを学びました。

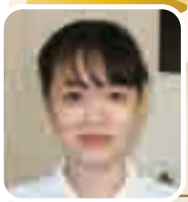
活発な意見交換

40名の参加があり、午前・午後ともに、参加型の講義となり、活発なロールプレイや、リーダーシップについても参加者からの意見発表がありました。「良かった」「実践に活かせる」などの感想や意見が多く、有意義な研修でした。しかし参加者から、「5年ぶりの研修参加であった」との声があり、介護施設等で働く看護職は限られた人員配置の中からの参加のため、なかなか研修に出席できない状況であることを改めて感じました。

今後もより多くの方が参加でき、実践に活かせ、スキルアップできる研修を企画したいと思いますので、皆さんの参加、意見をお願いします。

2019年 平成生まれナース

今年の抱負



新年の抱負

山形県立中央病院
看護師　今野 可蓮

看護師になり、はやくも1年目が終わろうとしています。2018年は新人看護師として働き始め、業務の流れを覚え、目の前のことをこなすことに精一杯でした。2019年は1年目よりも気持ちに余裕を持ち、患者さんの気持ちに寄り添った看護を大切にしていきたいです。また、今年は多くの人に支えられた1年でもありました。支えてくださる方への感謝の気持ちを忘れずに、知識・技術ともにさらにレベルアップできるよう、一日一日の学びを大切にしていきたいと思います。

ママとして助産師として

さとうウィメンズクリニック
助産師　佐藤 弥生

今年でクリニックに勤めて3年になります。クリニックでは年間700件ほどのお産があり、多くの出産に関わらせていただきました。プライベートでは一昨年秋に出産し、復職しながら歩く娘を追いかける毎日です。育児を通して助産師としてだけではなく母として子供をみることの大変さを実感し、改めて出産した後がママとしてのスタートなんだと感じました。今年は育児の経験を生かし、乳幼児期の母乳ケアや育児支援も出来るよう勉強し、娘の成長も楽しみたいと思います。

忘れられない一言

鶴岡市立荘内病院
看護師　沼沢 聡美

脳神経外科・神経内科など6診療科が混在する入院棟の配属となり3年が経過しました。入職当初、緊張と不安でいっぱいだった私に「アルバイトさん」と患者さまから掛けられた言葉は今でも忘れられず、専門職として患者・家族に関わることの責任や難しさを実感しました。看護師として多種多様な疾患の理解に加え、個別的な看護援助ができるように、患者の心に寄り添っていきたいです。そして、今後も目標を見失うことなく目指す姿に向かい、自己研鑽に励んでいきます。

今年の抱負

三友堂病院　看護師　大河原　萌

私は入職時よりＨＣＵに勤務し、早５年目となりました。

急性期治療、術後管理、救急搬送患者さまの対応で、多職種の方と多く関わり、コミュニケーションが重要であることを痛感しています。高度な治療の中で、アセスメント能力や技術の習得、めまぐるしく変わる患者さまの転棟など忙しい中でもやりがいを感じ、日々成長を実感しています。また、いつも明るく、メリハリのある上司や一生懸命な後輩のみなさんに日々刺激を受けながら看護をしています。

今年も昨年以上に知識や技術を磨き、６年目となるため後輩育成など頑張っていきたいと思います。

自分の看護を見直す機会に

小国町立病院
看護師　伊藤　優

平成の時代も残すところあと少しとなりました。来年度から新しい年号が始まれば、平成生まれと言ってももう驚かれなくなるのかなと、少しさみしい気持ちになります。3月には第一子が誕生し、今は育休明けで仕事の感覚を必死に取り戻しているところです。この機会に自分の看護を見直し、足りない知識をもう一度勉強し直して、少しでも病棟の戦力になることができるよう頑張りたいと思います。

新年を迎えて

新庄徳洲会病院　看護師　菅　智絵

私は昨年7月から新庄徳洲会病院で働き始めました。初めての転職には不安や葛藤がありましたが、忙しくても手を止め優しく丁寧に教えて下さり、声をかけて下さる看護師の先輩方やスタッフの方々のおかげで、現在はある程度業務にもなれ、少しずつ余裕も出てきました。同期にも恵まれ、プライベートでも食事や遊びにいく仲です。人生の転機となった1年でしたが、自分の決断に1つも後悔がないと実感できる年でした。

まだ知識・技術と様々な点で看護師として未熟な状態です。未熟さを言い訳にせず、その日の振り返りや学習を怠らず、努力していきます。また現在よりも常に余裕を持ち、周りを見て、先を予測して要領よく動けるよう心掛けていきます。今年は看護師としてさらに成長し、病棟・患者様に貢献できるよう日々精進していくのが目標です。

看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)活用に関する調査

看護師職能委員会Ⅰ

山形県看護協会では、平成28年度に日本看護協会が公表した「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）（以下JNAラダーと略す）の活用を推進するため、平成28年度、29年度、30年度と研修会を開催しました。また、看護師職能委員会Ⅰは、JNAラダーの運用に関する周知活動を行ってきました。

このたび、看護師職能委員会Ⅰでは、各施設の活用の状況を把握するために、ラダー導入・運用の現状から課題を明らかにすることを目的にアンケートを実施しましたので下記の通り報告いたします。

1．アンケートの調査方法

1）調査機関：平成30年10月5日～10月31日

2）調査方法：山形県内68施設の看護管理者にアンケートを送付し、郵送で回答。

3）調査内容：設置主体、病床規模、看護職員の雇用状況、看護管理者に対する教育課程、看護職員の教育を企画・実施・評価する組織の有無、看護部育成に関する理念あるいは理念と目標の有無、教育方法とその割合、ラダーの導入状況、JNAラダーの認識、JNAラダーの導入状況、JNAラダー導入の課題、JNAラダー研修の参加状況、研修内容の希望等について調査。

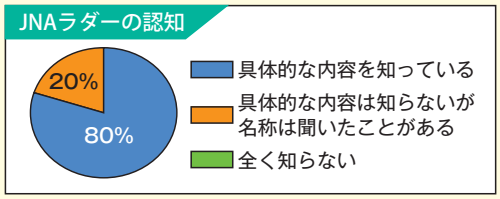
4）用語の定義：大規模病院 500床以上、中規模病院 100床～499床、小規模病院 99床以下

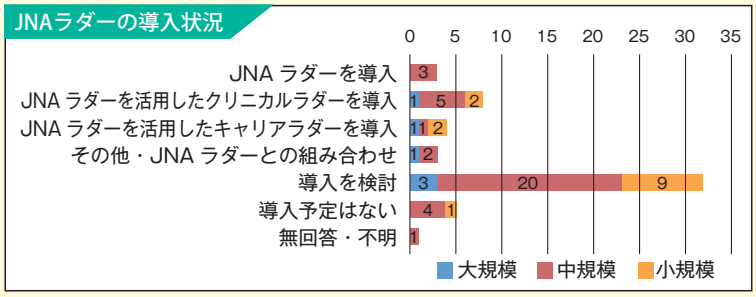
2．アンケート回収

配布数：68施設　回収数：55施設　回収率：80.9%

3．調査結果

1）JNAラダーの認知と導入状況





2）JNAラダーの導入の課題

①教育活動に関する人員・人材・時間不足で困っている（特に中小規模病院）②どのように計画・実施するか、すり合わせ方法や研修内容をどうするか ③評価基準、評価者教育、整合性など不安

④自施設の特性、専門性とのすり合わせ ⑤相談窓口を設置してほしい

3）JNAラダーに関する研修の希望

①自施設のラダーとJNAラダーを組み合わせの方法 ②具体的な事例の紹介 ③運用している施設間の課題共有、解決策の交流会 ④具体的な評価方法 ⑤2・3回の開催

4．まとめ

・JNAラダーの認知は、「具体的な内容を知っている」が80%と高く、山形県看護協会主催の研修会や看護師職能委員会Ⅰの周知活動の効果が見られたと示唆された。

・JNAラダーの導入状況は、「導入または自施設のラダー等と組み合わせ」32.7%、「導入を検討」56.4%であり、県内施設の関心が高いことがわかった。看護管理者はJNAラダーの必要性や活用について、よく理解し推進することが重要と考える。山形県看護協会としてJNAラダーの活用推進に向けて、課題や要望をふまえ各施設の課題解決を支援する具体的対策の検討が求められている。

サードレベル公開講座

トップマネージャーと自分自身のあるべき姿を探求した33日間

宮城県　スズキ記念病院　看護部長　佐々木 浩美

看護管理者として、看護部の組織改革や人材育成、地域包括ケアの推進などの取り組みを自信を持って積極的に実践できるようになるため、サードレベル研修を受講しました。

全23講義のテーマは多岐にわたり、各自の看護管理実践と照らし合わせ考察をまとめた学習カードの連日提出、4つの課題についてのレポート作成、最終日に行われる自ら立案した看護管理実践計画の発表準備などに明け暮れる毎日でした。

この研修を通して、種々の理論が実践のあらゆる場面で活用できることを学び、トップマネージャーは幅広い知識や問題解決能力を兼備しておくとともに、病院の継続的変革に必要な日常業務での創意工夫を凝らせる現場スタッフの人材育成と文化づくりを実践していくことが重要であると痛感しました。

今後は、国内外の政策や看護の動向を把握し、地域と自施設を分析したうえで、関連部門と連携しながら地域母子保健向上に貢献できる質の高い看護事業にチャレンジしたいと考えています。

最後に、ご講義いただいた先生方、ご指導・ご支援いただいた認定看護管理者の方々、ともに学んだ受講生の方々、機会を与えていただいた職場の上司と同僚、家族に深謝し研修の感想といたします。

庄内支部 活動状況

庄内支部の活動報告

庄内支部長　齋藤 ルミ

井上会長の講演

ANA ビジネスソリューションズ
大月真由美氏の講演

庄内支部では、7月14日(土)に三川町なの花ホールにおいて第1回庄内支部研修会を207名の参加で開催しました。最初に山形県看護協会井上会長より「山形県看護協会の現状と動向～地域包括ケアシステムの推進・深化に向けて地域の看護力を強化しよう～」と題してご講演をいただきました。「看護協会の目指す方向が分かった」「もっとゆっくり話が聞きたかった」という感想が聞かれました。次に「医療現場の接遇研修～接遇の基本から仕事に臨む姿勢、チームスピリット～」と題してANAビジネスソリューションズ　大月真由美氏よりご講演いただき、「話の内容や実技をふまえたところがわかりやすく良かった」「改めて接遇の大切さを感じた」「明日からの振る舞いに活かしたい」など実践につながる感想が寄せられました。

ノルディックウォーク
での健康チェック

「まちの保健室」では、7月1日(日)に第20回国際 ノルディックウォークin鶴岡を開催し、述べ84名の方が参加しました。10月8日(日)には小真木原総合体育館で実施する予定でしたが、台風の影響でイベントが中止となりました。11月3日(土)に酒田市平田で開催し、118名の参加者がありました。12月7日（金）には庄内地域の新人看護師交流会を開催しました。

今後も会員の皆様や地域の方々の意見を取り入れ、コミュニケーションを図る機会を増やし支部活動を活発にしていきたいと思います。

置賜支部 活動状況

置賜支部の活動状況

置賜支部長　高橋　啓子

研修会
「安心して暮らせるまちづくりを考える」

置賜支部活動として主に、「研修会」2回と「まちの保健室」3回の事業を行いました。

第1回の研修会は7月21日に山形県看護協会井上会長より『地域包括ケアシステムの推進・深化に向けて地域の看護力を強化しよう』と題してご講演と、山形県看護協会災害支援ナースであり置賜総合支庁総務課職員係保健師である長岡静子氏より『災害支援ナースの役割について』のご講演をいただきました。第2回研修会は11月10日に「私たちの地域活動を知り、安心して暮らせる町づくりに参画しよう」と題して、1) 地域包括ケアシステム構築に向けての取り組み発表、2) 人事交流体験報告、3) グループワーク・発表を行いました。2回の研修会とも参加者より、「内容が充実しており地域の事を考えるきっかけとなった」「安心して暮らせる地域にするため、私たちができることを部署を超えて情報共有し、顔の見える関係ができとてもよかった」「今後の看護に活かせる研修だった」など、多くのご意見をいただき大変好評でした。

まちの保健室

まちの保健室は9月15日（土）西置賜消防本部、10月20日（土）置賜総合病院、11月10日（土）三友堂病院において開催しました。血圧測定、体組成計、健康相談、ちびっこナースウェア試着・写真撮影を行いました。多くの来場者があり地域の方々にお役に立てたのではと思っております。今後も会員の皆さまの意見のもと、多くの方が参加できるような研修会の企画と、地域の皆さまに貢献できるような活動をしていきたいと思います。

「性の健康教育からいのちの教育へ」

いのちの教育推進委員会　委員長　庄司 憲子

当委員会は平成18年より、「助産師職能小委員会」として発足しましたが、平成19年より、「性の健康を支援する委員会」として、小・中・高等学校等への「出前授業」などを中心とした活動や、研修会を行ってまいりました。

近年、LGBTなど「性」の支援のあり方も多様化し、依頼される「出前授業」の内容も多岐にわたるようになってきました。そこで、委員会の名称を「性」に特化したものではなく、「生」も含めた「いのちの教育」を広くすすめていくことを目的に、今年度より委員会の名称を「いのちの教育推進委員会」と変更し、委員会メンバーとして、新たに看護師や男性看護師が加わりました。

現在、「出前授業」を行うための「性の健康支援ネットワーク」の登録会員は保健師・助産師・看護師合わせて52名で、そのうち、3名の男性にも登録いただいています。年々「出前授業」の需要が高まっていますが、実働できるネットワーク会員が少ない現状です。「いのちの教育」を一緒にしていただける仲間を随時募集しています。興味のある方は、看護協会までお問い合わせください。

認定看護師の活動状況

糖尿病看護認定看護師としての取り組みについて

～地域を超えた療養支援の充実を願って～

山形県立新庄病院　糖尿病看護認定看護師　　加藤　智華

私は、糖尿病看護認定看護師として昨年より活動しております。当院ではインスリン療法を行っている高齢者や血糖コントロールが安定しない患者さまの療養支援を重点に行なうと共に、足病変の予防や、早期発見を目的としたフットケアに力を入れて取り組んでいます。また糖尿病療養チームでは、定期的に糖尿病教室や症例検討を行っております。今後は、院内のスタッフに向けた支援へと活動を広げる事で、さらに患者さまのニーズに答えられるようになればと考えております。糖尿病は年代も幅広く、妊娠期や高齢期、周術期、腎機能低下時などきめ細かな治療が必要な疾患です。また糖尿病治療は、患者の療養行動が治療効果につながるため、患者の心理面や社会面などを考慮し継続した療養支援が重要になります。山形県内には糖尿病専門医３７名、認定看護師８名、日本糖尿病療養指導士が184名おり、最上地域では専門医２名、認定看護師１名、日本糖尿病療養指導士が数名となっております。また山形県では、今年度から多職種による糖尿病疾患の理解と糖尿病ケアの質の向上を目指し山形県糖尿病療養指導士認定制度が発足し、その立ち上げにも関わらせて頂きました。講習会には多くの方から参加して頂き、関心の高さがうかがえました。今後、糖尿病の療養支援に携わっていかれる皆様と協力し、患者さまがその人らしく安全に糖尿病治療が続けられるよう活動して参ります。

糖尿病療養支援チーム

地域の中で取り組む褥瘡予防ケアの実践

山形市立病院済生館　皮膚・排泄ケア認定看護師　髙橋　真理子

平成15年から褥瘡対策委員会が発足し、院内の褥瘡発生予防と早期治癒に向けて活動し、平成29年度の院内の新規褥瘡発生率は、0.6％（自重関連褥瘡と医療関連機器圧迫創）まで低下しました。しかし、入院時に褥瘡感染やポケットを保有している重症な褥瘡患者の状況は変わっていません。

そこで、平成27年から施設や訪問看護ステーションの介護士、看護師やコメディカルの方に褥瘡予防の基礎セミナーを開催しています。講義と演習を行い体感して学ぶことができ、実践に活かせるように工夫しています。皆さんの、褥瘡を作らない、治したい熱い思いを感じると共に、私も在宅・地域の現状を教えて頂き刺激になっています。

平成28年からは、皮膚科で褥瘡の外来も開始し、地域の診療所の先生方からの紹介を基に、皮膚科医師と認定看護師や褥瘡対策委員会メンバーが局所だけではないトータル的な治療にあたっています。予約制とし、自立度の低い方でも待ち時間がないように負担の軽減に努めています。

入院中の重症な褥瘡保有者には、褥瘡対策委員会メンバーと褥瘡回診の中で治療を行い、退院後も褥瘡の外来に通院して治療を継続しています。施設や自宅で過ごしている患者さんの様子や介護力を考慮したケアを指導しています。

今後も、治療の中心である病院と生活の場が繋がり、褥瘡治癒に向けた褥瘡ケアを実践すると共に、地域で活動する医療・介護関係の方に褥瘡予防ケアのセミナーを続けていきたいと思います。

ポジショニングの演習

褥瘡処置の実際

ナースセンターだより

山形県ナースセンターは、看護職と求人施設をサポートします!!

医療職のWLB推進 フォローアップワークショップを開催します！

山形県看護協会は、医療職の「働き続けられる職場づくり」を目指し、ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ事業に取り組んでおります。県内4施設のこれまでの取り組みの発表と、日本看護協会が提案する「ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）」について、また平成31年4月から順次施行される「働き方改革関連法」についての講演を予定していますので是非ご参加ください。

＜日　時＞　**平成31年2月19日（火）　10:00～15:30**
＜会　場＞　山形県看護協会
＜参加費＞　無料
＜内　容＞　・ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）について
・働き方改革関連法・労働時間等設定改善指針について
・山形県医療勤務環境改善支援センターについて
・取り組み施設の発表、意見交換

「働く看護職」「看護管理者」「組織•施設管理者」必見!!

ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）とは

保健・医療・福祉の分野の「ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）」は、組織の構成員だけでなく、職場を取り巻く地域社会や、患者（利用者）も含めて、全ての人々が互いの人権を尊重しあうことを基本として成り立っています。

職場環境・風土づくりに、組織、管理者、職員一人ひとり、そして患者（利用者）やその家族を含む地域社会が一体となり、主体的に取り組むことによって実現されます。

ワークショップ参加特典

ヘルシーワークプレイスガイドライン進呈!!

働き方改革関連法 労働時間等設定改善指針

主なポイント

★時間外労働の罰則付き上限規制の導入

月45時間、年360時間を原則とし、臨時的な特別な事業がある場合でも年720時間、単月100時間未満（休日労働含む）、複数月平均80時間（休日労働含む）を限度に設定。

★年次有給休暇の年５日の取得義務付け

10日以上の年次有給休暇が付与される労働者に対し、毎年5日を時季指定して取得させることを義務付け。

★勤務間インターバル制度の普及促進

前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間に一定の休息時間（インターバル）を確保。日本看護協会は、「看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」で11時間以上の確保を提言。

★夜勤回数の規制促進

夜勤回数が過重とならないようにする。日本看護協会は、3交代（1勤務8時間）の夜勤では月8回以内を提言。

看護師等職場説明会を開催します！

県内病院等の魅力をＰＲし、看護学生等情報収集の場として、今年度も「看護師等職場説明会」を開催します。各病院のブースを自由に訪れ、求人担当者と面談し、説明を受けられます。

平成31年4月27日（土）　13:00～16:00
【会場】山形国際交流プラザ　山形ビッグウイング
（山形市平久保100番地）
＊例年と会場が変わっております。

会場の様子

「看護技術セミナー・ナースカフェ」報告

これまで、庄内・最上・置賜・村山地域で、救急時の対応や静脈採血の復習などの講義・演習などをおこなってきました。参加者の方々は、ブランクがあり復職に不安を感じている方、これまでの知識に自信をつけたい方など総勢15名が参加されました。参加者からは、講師の方々に一つひとつ丁寧に指導いただき、楽しい時間を過ごすことができたという声が多く聞かれました。

また、看護技術セミナー後の「ナースカフェ」では、お茶を飲みながら「一緒に次回のセミナーも参加しましょう」と誘い合うなど、参加者同士の交流が深まったようでした。この看護技術セミナー・ナースカフェをきっかけに、再就業を目指していってほしいと思います。

次回は、今年度最後の開催です。皆さまのご参加をお待ちしております。

看護技術セミナーの様子

ナースカフェの様子

第5回「看護技術セミナー・ナースカフェ」

＜日時＞平成31年2月28日(木)
＜会場＞山形県看護協会 研修室
＜時間＞看護技術セミナー「静脈採血の復習」9:30～11:30
　　ナースカフェ　11:30～12:30
＜受講定員＞10名(先着順)、無料託児あり(1歳から未就学児)

＊託児については、先着順となります。

未就業または離職される看護職へのお願い
看護師等の届出サイトとどけるんへ届出しましょう

平成26年6月の医療介護総合確保推進法成立に伴い、「看護師等の人材確保の促進に関する法律（人確法）」の改正が平成27年10月に施行されました。施行後、看護職は離職時などに住所、氏名、免許番号などの事項を都道府県ナースセンターへ届け出ることが努力義務化されました。

離職時などに届け出た看護職に対し、ナースセンターはライフスタイルに合った働き方を一緒に考え、看護職としての切れ目のないキャリアを積むことができるよう支援を行います。

就業相談と無料職業紹介や情報発信　再就業支援研修　ナースカフェなどの交流会

看護師等の届出サイト
とどけるん

スマートフォンやパソコンから「とどけるん」にアクセス。
書面での届出はお近くのナースセンターへお問合せください。

～退職する方へのお知らせ～

今年度もナースセンターでは、3月末で病院を退職される皆様へ「離職者アンケート」と「届出登録用紙」の記入をお願いすることになりました。看護管理者に一括送付しておりますので、記入の上、**看護管理者に提出**くださいますようご協力をお願いいたします。

提出期限：平成31年4月末

看護の仕事相談会　予定表

山形県ナースセンターでは、県内10か所のハローワーク等の会場をお借りして「看護の仕事相談会」を開催しております。
この相談会は、雇用保険受給者の求職活動に該当します。

ハローワークやまがた	2/8(金)・3/8(金)	ハローワーク鶴岡	2/13(水)・3/13(水)
ハローワークプラザやまがた	2/26(火)・3/26(火)	ハローワーク酒田	2/14(木)・3/14(木)
ハローワーク寒河江	2/6(水)・3/6(水)	ジョブプラザさかた	2/7(木)・3/7(木)
ハローワーク村山	2/25(月)・3/25(月)	ハローワーク長井	2/21(木)・3/18(月)
ハローワーク新庄	2/19(火)・3/19(火)	ハローワーク米沢	2/15(金)・3/28(木)

山形県ナースセンター（山形県看護協会内）
☎023-646-8878（直通）FAX023-643-5727
e-mail：yamagata@nurse-center.net

理事会の開催報告

平成30年10月26日（金）　第7回理事会

審議事項　1. 平成31年度山形県看護協会通常総会の日程について　<承認>

平成30年11月30日（金）　第1回常務理事会

審議事項
1．公益社団法人山形県看護協会定款一部改正（案）について
2．公益社団法人山形県看護協会定款細則一部改正（案）について
3．臨時総会の日程（案）及び第2回職能・常任・認定看護管理者教育課程運営・推薦委員会及び支部長・副支部長との合同会議の日程変更（案）について
4．平成31年度山形県看護協会重点事業（案）について

以上、理事会への提案として承認される。

平成30年12月6日（木）　第8回理事会

審議事項
1．平成30年度山形県看護協会上半期事業報告　<承認>
2．平成30年度山形県看護協会上半期決算及び監査報告　<承認>
3．公益社団法人山形県看護協会定款一部改正（案）について　<承認>
4．公益社団法人山形県看護協会定款細則一部改正（案）について　<承認>
5．臨時総会の日程（案）及び第2回職能・常任・認定看護管理者教育課程運営・推薦委員会及び支部長・副支部長との合同会議の日程変更（案）について　<承認>
6．平成31年度諮問審議事項（案）について　<承認>
7．平成31年度山形県看護協会重点事業（案）について　<承認>
8．平成31年度山形県看護協会教育計画について　<承認>
9．平成31年度山形県看護協会職能・常任・認定看護管理者教育課程教育運営委員の選出について　<承認>
10．平成31年度日本看護協会名誉会員候補者の推薦について　<承認>
11．平成31年度日本看護協会長表彰候補者の推薦について　<承認>
12．山形県看護協会平成31年度事業スケジュール（案）について　<承認>

平成30年10月下旬～12月中旬の山形県看護協会事業実施状況

- 平成30年10月24日（水）　置賜地域技術研修会ブロック会議
- 平成30年10月25日（木）　助産師出向支援導入事業「庄内地域交流会」
- 平成30年10月27日（土）　庄内地域ブロック会議
- 平成30年11月１日（木）　平成30年度上半期会計監査
- 平成30年11月２日（金）　認定看護管理者教育課程サードレベル閉講式
- 平成30年11月６日（火）～8日（木）　日本看護協会との災害支援ナース派遣調整合同訓練
- 平成30年11月９日（金）　庄内地域看護管理者ネットワーク会議研修会
- 平成30年11月10日（土）　平成30年度山形県看護研究学会
- 平成30年11月12日（月）　最北支部新人看護職交流会
- 平成30年11月14日（水）　村山地域技術研修会ブロック会議
- 平成30年11月15日（木）　e-ラーニングを活用した訪問看護師養成講習会閉講式
- 平成30年11月17日（土）　最上地域ブロック会議
- 平成30年11月19日（月）　置賜支部新人看護職交流会
- 平成30年11月26日（月）　山形支部新人看護職交流会
- 平成30年11月27日（火）　西・北村山地域等看護力連携会交流会
- 平成30年11月29日（木）　最上地域看護管理者ネットワーク会議
- 平成30年12月７日（金）　庄内支部新人看護職交流会
- 平成30年12月15日（土）　平成31年度山形県看護協会教育計画に関する懇談会

information インフォメーション

カリウム製剤事故防止キャンペーン

これまでもカリウム製剤に関する事故防止策が講じられてきましたが、残念なことに事故が繰り返されています。あなたの病院ではカリウム製剤の作用や使用方法の学習をしていますか？カリウム製剤の管理方法が決まっていますか？

カリウム製剤投与間違い再発防止の取り組み

○カリウム製剤に関する正確な知識を学習しましょう
○カリウム製剤の取り扱いに関するルールを施設で決め、周知しましょう
○カリウム製剤の「投与量」「投与方法」などについての注意喚起をしましょう

平成30年度 会館建設積立金納入状況

（平成30年12月31日現在）

納入人数	金　額	満額納入者
3,251	16,208,000	67名

皆様の多大なご協力ありがとうございます。
今後ともよろしくお願いいたします。

会員専用ページ キャリナース ぜひご登録ください!!

★日本看護協会ホームページからユーザー登録すると会員情報の確認や変更、研修受講履歴の閲覧が可能になります。また都道府県看護協会と日本看護協会主催研修の検索や受講証明書の発行、文献検索や各種資料など看護業務に役立つ魅力的なコンテンツもご覧いただけます!

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今回は平成最後の年ということで、平成生まれのフレッシュなナースの抱負を掲載しました。猪のようにまっすぐに、ひたむきに駆け抜け活躍できる1年でありますように。

山形いぶき 第144号 編集／広報委員会 発行／平成31年1月31日 公益社団法人山形県看護協会 〒990-2473 山形市松栄1-5-45(アルカディアソフトパーク山形内) TEL023-685-8033